

作文の部 教育長賞

「男だから」「女だから」って決めつ

けないで

東久留米市立第五小学校

五年 福井 未来

私は最近、「男女平等」についてよく考え  
るようになりました。それは、日常のちよつ  
とした出来事の中に、「男だから」「女だか  
ら」という理由で差を感じるものがあつたか  
らです。大人が何気なく言った一言や、学校  
での一場面に、少しずつ違和感を覚えるよう  
になりました。  
ある日、授業でグループ発表をすることに  
なりました。話す人を決めるとき、女子が  
「私が話すよ。」  
と、言つて、ほとんどその子が話すことにな  
りました。すると、ある男子が  
「女子ばかり出たがるよな。」  
と言いました。その時、わたしはちよつとび  
つくりしました。たしかに、男子はあまり前

に出たがらなかつたけれど、「女子だから話  
したい」わけではなく、一人一人が「やりた  
いからやっている」だけです。だから、男だ  
とか女だとかで分けるのは、違うと思いまし  
た。私はやりたいと思った人がやればいいと  
思います。

また、学級委員を決めるときにも「男女一  
人ずつ」というルールがありました。もちろ  
ん、バランスを取ることは大切かもしれませ  
んが、「この人がふさわしい」と思われてい  
る人が二人とも女子だった場合でも、男子の  
中から無理に一人選ばれることになります。  
「それって本当に平等なのかな？」と思いま  
した。

こんなふうに、性別で何かを決められるた  
びに、私は、「人は中身で判断されるべきじ  
やないの？」と思ってしまいます。性別より  
もその人の考え方や、得意なこと、やる気な  
どが大切だと思います。

今の世の中では、「男女平等」はまだ実現

してないと思います。例えば、ニュースで、「女性の管理職の割合が少ない」という話を聞いたことがあります。その理由の一つに、「子育てや家事は女性がするもの」という固定観念があるそうです。でも、子育ても家事も、本来は性別に関係なく協力してやるべきだと思います。家庭のことを手伝う男性がもっと増えれば、女性が社会で活躍するチャンスも広がるはずですよ。

私は、将来どんな仕事をする事になって、も、「男だから」「女だから」と決めつけられたくありません。自分の意見や力で評価されたいと思います。そして、周りの人に対して、性別ではなく一人一人の個性を大切にしたいです。

これからは、私も「男のくせに」「女のくせに」といった言葉を無意識に使わないようにしたいです。小さなことかもしれないけれど、そういう言動や行動が、少しずつ平等な社会をつくっていく力になると信じていま

す。

